



励ましの風揚げ の 広がり

心 あ っ た か ニ ュ ー ス

NMCAA
NO3

3.11東日本大震災の後、励ましの風揚げが毎年行われ、参加の国も増えているそうです。始まりは中東パレスチナのガザ地区から。被災者の応援と復興を願うため千人以上の子どもたちが風揚げを行っていました。でもそんなガザ地区も激しい空爆が繰り返され、多数の被害を受け、50万人が難民となるといった大惨事に見舞われました。そんな状況でもガザの子どもたちの日本の被災者への祈りを込めた風あげは毎年続けられ、その取り組みを受けて、2015年、今度は釜石市の子どもたちが、多くの人々が犠牲になったガザのために平和と復興を願って風あげを行いました。両国の想いに共感し、今年3月平和の風揚げはハイチ、チリ、ネーパール、ジョージアでも行われました。たこはうまく揚がらなかったが、「目の丸」を見せて誇らしげな子供たちのそろいのTシャツには「絆」あなたたち日本と共に「」などが書かれていたそうです。

店員さんの優しさ

バージニア州のスターバックスに通うピラチャさんは、聴覚がなく、飲み物のオーダーをする時はスマートフォンに文字を入力して、カウンター越しに店員に見せる必要があったが、最近1枚のメモを手渡された。そこには「あなたがお客様と同じようにスターバックスを楽しめるように、手話を勉強しています」と書かれていた。店員さんが手話で「お飲み物は何にされますか?」と聞いてきてくれた時は本当にうれしかったそうです。「私たちのように耳の不自由な人のコミュニケーションをサポートしてくれる人がいるのは嬉しいです。私たちは時に、周りから突き放されたような気持ちになることがあります。このことで、より多くの人にもっと私たちのことを積極的に知ってくれるようになったら嬉しいです」

松下幸之助的教育

故、松下幸之助さんの側近によるお話を東洋経済より
松下が同じ質問を繰り返して私にしているという事はすなわち部下の答え

がいいか悪いかよりも先に「この社員を育ててあげよう」ということを優先させているのである。「それは駄目だ」「そんな答えは答えになっていない」「お前は役に立たない」。松下は、2年間をそばで過ごした間、1度もそういう言葉は言わなかった。本人が気がつくまで、自覚するまで、根気よく尋ね続ける。その松下の姿勢には、若い者や部下を、育てたいという愛情があることを私はつねに感じていた。

編集後記

九州の地震の後も、多くの国からの支援があります。人と人が絆があるから、国と国も絆で結ばれます。平和の風揚げが世界中で上がるとうれしいです。国は違っても相手の心を思いやることのできれば、平和につながるはず。